

平成25年度
事業報告書

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

平成25年度事業報告書

〔平成25年4月1日より平成26年3月31日まで〕

《総 論》

1 総 論

西日本地域における大規模コンベンション開催の拠点として、理想像である「北九州メッセ」の実現を目指し、当協会が産業の活性化や地域のにぎわいづくり等において中心的役割を果たしていくため、前年に引き続き以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・主催事業を有機的に連携して実施することにより、産業・貿易の振興、国際交流の推進を図る。
- ・コンベンションの誘致・開催により、北九州地域のにぎわいづくりに積極的に取り組む。
- ・お客様の満足度の向上と、より効果的・効率的な管理運営を行い、あわせて経費の節減に努める。

【概況】

平成25年度は、多くの市制50周年記念事業の開催などの効果もあったほか、積極的に大型コンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。

これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数ともに前年度並みを確保した。

また、収支についてもある程度の黒字を確保し、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、今後は市制50周年記念事業などの一時的な増収要因が無くなり、また、イベント・コンベンション等の福岡市への一極集中の進展、さらに周辺他都市では、新たに同様な施設の整備計画が多数同時で並行して進行するなど、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【指定管理計画の達成状況および次期指定管理の指定獲得について】

平成25年度は、概ね目標を達成した。施設別に見ると、展示場新館（国際展示場）が、利用件数170件・稼働率78.2%（目標：140件・80%）、国際会議場が、513件・88.3%（目標775件・90%）であった。

さらに、施設利用者数については、89万人と、現行の指定管理期間における最高値（これまでは平成24年度の79万人）を記録した。

また、平成26年度から始まる次期5年間の管理者として、指定を改めて受けることに成功した。

このため、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

【平成25年度の取り組み】

① 主催事業への取り組み（3ページを参照）

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

② コンベンション誘致の強化（10ページを参照）

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

③ 積極的な営業活動の実施（16ページを参照）

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討（19ページを参照）

市制50周年を迎え、小倉中心市街地を舞台にした様々なイベントが開催された。この好機に小倉駅新幹線口の地元や関係団体との連携を強化し、当該地区のにぎわいづくりに活用するよう、さまざまな取り組みを行った。

⑤ 施設利用者の利便性向上（22ページを参照）

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保するため、各施設・設備について、安全を最優先に老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努めた。

⑥ 西日本総合展示場本館の改修等（23ページを参照）

本館の築36年経過による劣化等に対応するための維持補修に加え、前年度に引き続き耐震診断調査を実施した。

《各 論》

I 公1：見本市・展示会事業（公益目的事業）

【総 括】

アベノミクス効果による企業収益は回復基調にあるものの、官公庁や関係機関の予算削減の影響や、広告費や経費削減の一環として企業の展示会への出展は依然、減少傾向にある。

このような環境の変化に対応するため、展示会の魅力の向上に努めるとともに、内容のリニューアルや新企画コーナーの実施など、事業ごとに様々な対策を講じた結果、来場者は増加した。

今後も、経費削減や事業のリニューアル、リストラクチャリング等を強力に推し進め、新規企画の実施や新たな主催事業の立ち上げに向けて調査研究を継続する。

◆主催事業開催状況(H22～H25)

※目標値は指定管理計画の数値

	H22	H23	H24	H25
主催事業数(件) / 目標 12 事業	11	11	11	11
主催事業入場者数(人) / 目標 20 万人	178,164	174,352	179,690	192,219
主催事業出展社数(社) / 目標 1200 社	981	1,018	973	914

1 主催・共催事業

(1) 当協会が主催・共催する主な見本市・展示会

地域における産業・貿易の振興を目的として、当協会は以下のとおり見本市・展示会を企画、開催した。

() 内は 24 年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア2013	5月2日 ～6日	49,105人 (49,172)	215社・団体 (225)
西日本製造技術イノベーション2013	6月12日 ～14日	15,769人 (15,696)	47社・団体 (43)
第39回ふくおか産業技術振興展			28社・団体 (32)
第35回西日本陶磁器フェスタ	9月13日 ～17日	55,931人 (49,284)	195社 (192)
日本陶芸展九州展			150点 (0)
エコテクノ 2013	10月16日 ～18日	29,651人 (27,588)	134社・団体 (173)
エコ・ベンチャー・メッセ2013			38社・団体 (49)
中小企業テクノフェア in 九州2013			46社・団体 (43)
九州・国際テクノフェア2013		20,051人 (12,404)	20社・団体 (16)
再生可能エネルギー先端技術展2013			83社・団体 (75)
P.P.C.2013 第15回西日本国際福祉機器展	11月22日 ～24日	20,712人 (25,546)	108社・団体 (125)
合 計	11事業	192,219人 (179,690)	914社・団体 (973)

※ 日本陶芸展の九州開催は16年ぶり、北九州市開催は26年ぶり 協会主催は初

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 大型コンベンションとの同時開催

共通のテーマを持つ展示会とコンベンションを同時開催することにより、その相乗効果による商談や交流機会の促進を図り、産業振興やにぎわいづくりの創出に取り組んだ。

○「エコテクノ 2013」他、同時開催事業と「環境未来都市国際会議」との連携開催

「環境未来都市国際会議」は「第 3 回環境未来都市構想国際推進フォーラム」、「OECD グリーンシティプログラム北九州レポート発表記念会議」「都市づくりの将来に関する国際会議」「ESDに関するアジア太平洋地域 RCE 地域会議」からなり、エコテクノとの同時開催を行ったことで、海外からの来場者が多数あり、例年よりも国際色の強い見本市となった。

イ 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

○「西日本総合機械展」をリニューアルし、「西日本製造技術イノベーション」として開催

機械・金属加工分野の工作機械を中心に開催してきた「西日本総合機械展」であったが、他の成長分野への参入を模索する地元企業のニーズの変化を受け、対象を医療・福祉、製薬、環境、食品、化学・素材等に拡げ、様々な製造技術分野における高度な取り組みを紹介していくこととした。

このため、名称を「西日本製造技術イノベーション」と改め、開催した。

○5 事業を同時に開催

例年秋季に二期に分けて開催していた「エコテクノ／エコベンチャーメッセ」、「中小企業テクノフェア」と「再生可能エネルギー先端技術展」、「九州・国際テクノフェア」を、新館・本館を利用して同時開催し、来場者の増加を図った。

また、「エコテクノ」と「再生可能エネルギー先端技術展」は、出展社・来場者の一部から、出展分野に重複があり分かりづらい等の指摘を受け、一つの展示会として開催することを、両展示会の主催である福岡県、北九州市、九州経済産業局、当協会で合意した。2015 年の一体開催にむけて今後 4 者にて協議をすすめていく。

○「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

自動車、トラック、船舶等の輸送・低炭素化を図る技術を紹介する「次世代輸送機器・物流技術展」をエコテクノのフェアインフェアとして開催した。

新たに、ハイブリッドトラックが出展されるのに合わせ、北九州市と連携してモーターシフトをテーマとした「内航フェリーセミナー」を実施、新たな来場者の誘致を図った。

○「西日本陶磁器フェスタ」の会期に合わせ、「日本陶芸展九州展」を同時開催。

現代日本を代表する陶芸作品を一堂に紹介する「日本陶芸展九州展」と、全国で最古参を自負する「西日本陶磁器フェスタ」を同時に開催した。同時開催による相乗効果によって、入場者数 5 万人超を達成した。

○九州・国際テクノフェアの発展的解消

平成2年から19回を数える「ICT」を中心とした「九州国際テクノフェア」については、ものづくり領域の情報通信技術分野の拡充を図り現在に至っている。しかしながら、近年は展示物となる製品がソフトウェア化、サービス化していることや、IT業界の営業手法の変化等もあり出展社の漸減傾向が続いた。

そこで、来場者を多く見込める事業との同時開催や、セミナーを組み合わせた新しい出展形態等での新企画を実施したが、出展社の減少に歯止めがかからず、開催規模の拡大も見込めないため、平成25年度の開催を最後に当協会主催の他の展示会へ統合することとした。

ウ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力した。

○エコテクノ2013 海外出展

2012年以降、様々な日中間の政治問題により、中国側の出展は滞ったままであったが、大連市の政府関係者、企業関係者が来日し、日中環境技術紹介セミナーが開催され、中国側のニーズを示すとともに、北九州市内企業の技術の紹介が行われた。

また、韓国についても関係改善の糸口が見いだせない中、大田市にアプローチして6社の出展を得るなど、民間レベルのビジネス交流に成功した。

エ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高めた。

○中小企業テクノフェア in 九州2013 ビジネスマッチング事業

大手企業OBの技術者で構成する「NPO法人北九州テクノサポート」による、中小企業テクノフェア出展社と地元企業とのビジネスマッチングを促進した。

市内主要企業への事前PRや、川上(中小企業)と川下(大企業)の『橋渡し』と『すり合わせ』を行い、ビジネスマッチングをきめ細かくサポートした。

なお、この事業による会期中の商談成立件数は昨年同様の10件に上った。

さらにマッチングの実績を上げるため、出展社説明会にて、「スキルアップ研修」を実施。出展の心構えや会期中のプレゼンテーション、商談、会期後のフォロー等について説明を行った。本研修の出展社の評価は91.5点(100点満点)と好評価を得た。

コーディネーター(川下企業OB)によるビジネスマッチング支援→中小企業テクノフェア

	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)
商談成立件数(件)	2	10	10
商談額(円)	12,000,000	14,520,000	8,500,000
商談成立見込件数(件)	48	24	6
同 見込金額(円)	11,000,000	31,700,000	15,700,000
商談折衝件数(件)	230	255	224
共同研究開発件数(件)	11	9	11

*平成22年度の中小企業庁「川下・川上ネットワーク構築事業」に採択されたマッチング支援を当協会単独で継続実施しているもの

○製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

西日本製造技術イノベーション（旧西日本総合機械展）と同時開催していた北九州市受注拡大商談会の中止に伴い、新たに受注対象企業に「西日本製造技術マッチングフェア」、「ふくおか産業技術振興展」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」の出展社も対象とし、展示会の新たな魅力づくりとして協会主催で「製造技術マッチングフェア」を開催した。マッチングについては福岡県中小企業振興センターの協力を得て、下記の成果を上げることができた。

→西日本製造技術イノベーション - 製造技術マッチングフェア
(2012年までは北九州市受注拡大商談会)

		2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)
製造技術マッチングフェア (川下企業と地元中小企業のマッチング)	発注企業(社)	24	31	43
	受注企業(社)	65	102	122
	商談成立件数(件)	13	20	19
	商談額(円)	68,460,000	32,949,000	11,827,000
	商談見込件数(件)	150	269	349

オ 市制50周年記念事業への対応

当協会の主催事業については、すべて市制50周年記念事業として開催、タイトルの冠付およびポスター、ダイレクトメールなどの印刷物へのロゴマークの掲載など、同事業への告知協力を積極的に実施した。

(2) セミナー・シンポジウム・併催事業（展示・商談会）等

前述の当協会の主催・共催事業と並行して、次のようなセミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高めた。

ア セミナー・シンポジウム

セミナー名	内容・講師(実施主体)	テーマ数	参加人数(人)	主催事業名
西日本製造技術イノベーション展 開催記念セミナー	第3回医歯工連携研究会 「医療・介護産業参入の進め方と課題」 NPO 法人 医工連携推進機構 客員研究員 吉川 典子 氏 他	6	473	西日本製造技術イノベーション2013
機械展関連セミナー 他	現場改善セミナー 「ヒューマンエラー防止のための改善活動」 (一財)日本規格協会 非常勤参与 正木 真一 氏 他			
4展合同開会記念セミナー	「エネルギー政策と省エネルギー技術の今後の期待」 (株)住環境計画研究所 代表取締役 工学博士 中上 英俊 氏	23	1,278	エコテクノ
内航フェリーセミナー ～環境 負荷低減と物流効率化に向けて～	「モーダルシフトの拠点北九州港」 北九州市港湾局長 橋本 哲治 氏 他			
J-クレジット制度活用セミナー～新 たな地球温暖化防止対策のための 制度が始まります 他	「J-クレジット制度について」 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 環境経済室 課長補佐 森川 純氏			

「北九州市制 50 周年記念」 中 小企業テクノフェア記念講演会 他	東成エレクトロビーム(株) 代表取締役 上野 保 氏	2	146	中小企業テクノ フェア in 九州
自動車技術セミナー (貿易・産業協力振興事業)	東京大学 先進モビリティ研究センター(ITS セ ンター)客員教授 田中 敏久氏 他	4	186	九州・国際 テクノフェア
BCN カンファレンス 2013 他	～IT 商材の「売り方」を考える～ ネットコマース(株) 代表取締役 CEO 斎藤 昌義 氏 他			
燃料電池・水素エネルギー専門 技術セミナー 他	「水素エネルギー社会の実現に向けて」 水素 エネルギー協会 副会長 秋葉 悦男 氏 他	11	1,820	再生可能エネ ルギー先端技 術展
燃料電池セミナー 他	「燃料電池自動車の開発動向と今後」 トヨ タ自動車(株) 開発本部 FC開発部 主査 三浦 晋平 氏			
西日本国際福祉機器展 開催記念講演会 他	地域包括ケアシステムの実現に向けた介護保 険改正について 講師 厚生労働省 老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官 宮永 敬市 氏 他	76	2,494	西日本国際福 祉機器展
合 計		122	6,397	

イ 併催事業

事業名	事業内容(実施主体)	出展社数	主催事業名
ロボット産業マッチングフェア北九 州 2013	北九州ロボットフォーラム	17 社・団体	西日本産業技 術イノベーション
製造技術マッチングフェア	地元中小企業の受注確保や新規取引先の 開拓を支援するための商談会(福岡県中小 企業振興センター)	発注企業 43 社 商談件数 349 件	

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係
団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

事業名	関係団体	大学・研究機関	関係行政機関
西日本総合機械展 西日本製造技術イノベー ション 2013	・(財)福岡県中小企業振興センター ・ロボット産業推進会議 ・北九州ロボットフォーラム ・福岡ナノテク推進会議 ・(公財)北九州産業学術推進機構 ・九州航空宇宙開発推進協議会 ・(社)九州経済連合会 ・九州ヘルスケア産業推進協議会	・九州工業大学 ・大分大学 ・九州共立大学 ・九州産業大学 ・西日本工業大学 ・福岡大学 ・福岡工業大学 ・北九州工業高専	・経済産業省 ・福岡県 ・北九州市

エコテクノ 2013 エコ・ベンチャー・メッセ	・九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP) ・北九州環境ビジネス推進会 ・(一社)九州ニュービジネス協議会 ・福岡県リサイクル総合研究センター ・福岡県中小企業家同友会 ・(公財)北九州産業学術推進機構 ・日本貿易振興機構	・九州大学 ・北九州市立大学 ・福岡女子大学 ・福岡大学 ・久留米大学 ・福岡工業大学 ・九州産業大学 ・長崎総合科学大学 ・滋賀県立大学	・環境省 ・経済産業省 ・資源エネルギー庁 ・九州経済産業局 ・福岡県 ・北九州市 ・大牟田市
九州・国際テクノフェア 2013	・(一社)九州経済連合会 ・(独)中小企業基盤整備機構 ・(独)日本貿易振興機構 ・(公社)九州機械工業振興会 ・(一社)九州ニュービジネス協議会 ・(公財)北九州産業学術推進機構 ・(公財)九州ヒューマンメディア創造センター ・(一社)九州テレコム振興センター ・(一社)福岡県情報サービス産業協会 ・(一財)九州産業技術センター ・北九州商工会議所	・九州工業大学 ・北九州市立大学 ・九州産業大学	・九州経済産業局 ・九州総合通信局 ・福岡県 ・北九州市
再生可能エネルギー先端技術展 2013	・福岡水素エネルギー戦略会議 ・(一社)九州経済連合会 ・NEF(新エネルギー財団) ・(一社)新エネルギー導入促進協議会 ・(一社)太陽光発電協会	・九州大学 ・九州工業大学 ・北九州市立大学 ・有明高専 ・鹿児島大学 ・熊本大学 ・山口大学	・資源エネルギー庁 ・九州経済産業局 ・福岡県 ・佐賀県 ・北九州市
西日本国際福祉機器展	・福祉住環境コーディネーター協会 ・(一社)日本リハビリテーション工学協会 ・(公社)福岡県作業療法協会 ・(公社)福岡県理学療法士会 ・福岡県保険医協会 ・(一社)日本福祉用具供給協会	・九州工業大学 ・福岡県立大学 ・熊本学園大学	・経済産業省 ・厚生労働省 ・福岡県 ・北九州市

(2) アジアとの連携・交流

ア アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

エコテクノに、韓国大田広域市の福岡通商事務所を通じて6社が出展した。

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
エコテクノ	6社・団体	韓国

イ 北九州市アジア低炭素化センターとの連携

エコテクノ会期中、アジア低炭素化センターと協力して、UNIDO（国連工業開発機関）のビジネスマッチング事業を実施、モンゴル、ラオス、カンボジアの政府関係者とエコテクノ出展社とのマッチングを行った。

（３）その他の連携・交流

ア 環境ビジネス展示会との連携強化

以前より連携を進めている仙台（東北エコプロダクツ）と連携して、環境省に対して「地球温暖化防止国民運動」をテーマとして地方環境展を活用した情報発信の企画提案を行い、採用された。

今回は、環境省が進めている、「スマートムーブ」、「あかり未来計画」を中心に、地元企業やNPO、家電メーカーなどの協力を得て、省エネ、屋上緑化、森林資源の活用などの低炭素化にむけた省エネルギー活動の紹介を行った。

イ 展示会・商談会を活用した中小企業のビジネス支援（再掲：P. 5 参照）

貿易・産業協力振興事業助成金を活用して、中小企業テクノフェア IN 九州において、北九州の大手企業 OB で構成する技術者集団「NPO 法人北九州テクノサポート」との連携により、「ものづくりの街」北九州の主要企業に出展企業について事前 PR、および会期中のビジネスマッチングを行った。商談成立 10 件、商談成立見込み 6 件 共同研究開発 11 件であった。

（４）新規見本市の開発

ア 安心・安全の未来展

日刊工業新聞社との共同主催にて、最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介するとともに、北九州市との共催で一般市民の防災意識の啓発を図るコーナーの設置や、セミナーなどを予定。

2015 年秋の開催にむけて、同社と協議を行った。

イ 第 3 回北九州医歯工連携研究会

「製造技術イノベーション展」において、北九州医歯工連携研究会（事務局：（公財）北九州産業学術推進機構）と、モノづくりの技術を応用して進められる「医歯工連携・医療機器産業参入」をテーマに、記念セミナーを開催した。

また、「生産現場におけるコーチング」をテーマに、テクニカルセミナーを行った。

ウ ヘルスケア展

国の「地域新規成長産業戦略」に位置づけられた「ヘルスケア産業」について、「西日本国際福祉機器展」と共同開催するための準備を行った（平成 26 年度に実施予定）。

Ⅱ 公 2 : 会議・大会等（公益目的事業）

【総 括】

都市間における MICE 誘致競争が年々激化している中、北九州市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める各種の会議・大会等を誘致するため、地元並びに全国のキーパーソンに積極的、かつ計画的に誘致活動を行った。

北九州市の開催助成金制度を活用した誘致活動では、大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等を多数誘致することができた。

平成 25 年度の開催状況は、昨年度開催件数を大きく上回り過去最高の 228 件となった。

なお、J N T O（日本政府観光局）が作成した「M I C E 開催による経済波及効果測定モデル」によれば、25 年度の当協会の誘致案件のみによる経済波及効果（間接 2 次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は 85 億 11 百万円であった。

◆年度別開催件数の推移

（単位：件）

区 分	国際	全国	その他	合計
25年度	37	102	89	228
24年度	55	83	70	208
23年度	38	61	67	166

◆年度別参加者数の推移

（単位：人）

区分	国際	全国	その他	合計
25年度	20,016	124,997	53,130	198,143
24年度	31,584	95,654	55,645	182,883
23年度	24,964	56,833	61,930	143,727

◆平成 25 年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催 時期	会 場	規模 (外国人数、人数)
国際	e-CASE&e-Tech, ISEP2013, ISBM2013	H25 年 4月	北九州国際会議場	800人 (37カ国 690人)
	誘導泳道現象ワークショップ	H25 年 4月	北九州学術研究都市 AIM	310人 (6カ国 72人)
	北東アジア標準協力フォーラム	H25 年 7月	北九州国際会議場	432人 (3カ国 240人)
	ICGET	H25 年 8月	北九州市立大学 北方キャンパス	400人 (9カ国 150人)
	第 47 回日本てんかん学会	H25 年 10月	北九州国際会議場 AIM	3,600人 (5カ国 24人)
	International Workshop and Conference on re-SHAPING urban coastal land-SCAPES for the Hibikinada Area in Kitakyushu 2014(JAPAN)	H26 年 2月	北九州学術研究都市	480人 (6カ国 375人)

全国	第1回北九州市市長旗争奪少年少女剣道大会	H25年 4月	北九州市立総合体育館 若松体育館	3,000人
	第34回母乳育児学習会 in 北九州	H25年 6月	北九州国際会議場	1,200人
	第10回日本うつ病学会総会	H25年 7月	北九州国際会議場 AIM	2,000人
	第17回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流	H25年 9月	北九州市立総合体育館、市内各地	4,172人
	第67回全国レクリエーション大会・福岡大会 3B体操全国交流大会 インディアカ全国交流大会	H25年 10月	北九州市立総合体育館 若松体育館	8,215人
	平成25年度全国小学校社会科研究大会	H26年 2月	北九州国際会議場	1,354人
九州	日本褥瘡学会九州地方会学術集会・教育セミナー	H25年 5月	アルモニーサンク北九州ソレイユホール	1,600人
	第101回日本消化器病学会九州支部例会	H25年 6月	北九州国際会議場 AIM	2,000人
	平成25年度九社連老人福祉施設協議会職員研究大会	H25年 7月	西日本総合展示場 新館	4,096人

1 誘致・支援事業

平成25年度においても国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ。北九州市で開催の各国際会議開催時にはバンケット等の様々な機会を活かし、密着営業を行うことで、キーパーソンの情報入手につながり、学会誘致への大きな手掛かりとなった。また、北九州独自の産業観光や、ユニークベニユーの提案、助成金制度等のツールを活用して営業強化を図るとともに、開催地決定の権限を持つキーパーソンを本市に招致し、開催確度を高める等、積極的に誘致活動を展開した。

これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用成果として、26年度以降に合計173件（26年4月1日現在）のコンベンションが予定されている。

◆平成26年度以降の規模別誘致状況

（単位：件）

区分	国際	全国	西日本・九州	合計
26年度	37	48	45	130
26年度以降	19	17	7	43
合 計	56	65	52	173

◆平成26年度以降開催の主な会議・大会等

規模	名 称	開催時期	会 場	規模 (外国国数、人数)
国際	The31th Live Demonstration in Kokura	H26年 6月	西日本総合展示場 新館	8,000人 (10カ国130人)
	第27回日本動物細胞工学会2014年度国際大会	H26年 11月	北九州国際会議場	1,750人 (8カ国250人)

	第 6 回レーザー先端材料加工国際会議	H27 年 5 月	北九州国際会議場	1,360人 (20カ国700人)
	ISMB2016 (第 15 回世界磁気軸受国際シンポジウム)	H28 年 7 月	北九州国際会議場	1,000人 (20 カ国 550 人)
	IRC2016 国際ゴム技術会議 IRC2016 ゴム・エラストマー技術展	H28 年 10 月	北九州国際会議場 西日本総合展示場 新館	2,750人 (20 カ国 750 人)
全国	日本家政学会第 66 回全国大会	H26 年 5 月	北九州国際会議場	1,800人
	第 49 回地盤工学会全国大会	H26 年 7 月	北九州国際会議場 西日本総合展示場 新館	5,400人
	第 47 回全日本社会人体操競技選手権大会	H26 年 9 月	北九州総合体育館	2,200人
	第 142 回日本歯科保存学会平成 27 年度春季大会	H27 年 6 月	北九州国際会議場 AIM	1,500人
	平成 27 年度全国港湾労働災害防止大会	H27 年 10 月	北九州芸術劇場	1,250人
九州	第5回西日本地区男女ペア・グランドゴルフ交換大会	H26 年 5 月	グリーンパーク	2,750人
	吹奏楽九州大会2014	H26 年 10 月	北九州市立 総合体育館	9,000人
	第9回九州放射線医療技術学術大会	H26 年 11 月	北九州国際会議場	1,500人
	第 46 回九州身体障害者福祉大会	H27 年 1 月	リーガロイヤル小倉	1,300人
	第 56 回日本肺癌学会九州支部学術集会	H28 年 2 月	北九州国際会議場	1,000人

(誘致に向けた主な取り組み)

(1) キーパーソンへの積極的な誘致営業

平成 25 年度は、地元のキーパーソンとの信頼関係の維持、行政や各種団体との連携強化を図りつつ、台湾、シンガポール等の海外への誘致セールスを行うとともに、国内は九州、山口地区へ営業エリアを拡大し、域内の新規大学等のキーパーソンへコンタクトを図り、積極的な誘致活動を展開した。

また、国際会議誘致では、北九州市で開催された国際会議のバンケット等の場で営業を行い、各国のキーパーソン情報を入手した。さらに、香港・シンガポールへ営業を実施した結果、香港の複数の主要大学の国際会議について、本市開催の手掛かりを掴んだ。加えて、シンガポールでは現地の P C O とのパイプを構築することが出来た。

○第 7 4 回日本消化器内視鏡技師学会（平成 27 年 5 月開催）

平成 25 年 6 月に北九州国際会議場で開催された九州支部例会開催期間中にキーパーソンである大会長と面談し、在住する他県へ数度にわたり訪問営業を展開した。

会場の利便性、開催支援制度の説明、大会規模に適したPCOの紹介など細部に渡りアドバイスをした結果、競合する他都市から北九州市での開催となり、新規案件の誘致につながった。

○第9回九州臨床工学会（平成26年10月開催）

誘致営業エリア拡大の一環で県内某大学を訪問し、平成26年に九州規模、27年に全国規模の臨床工学会が福岡県で開催される情報を入手した。全国規模大会の誘致には至らなかったが、九州大会を北九州市で開催する運びとなった。

○日本不整脈学会第8回植込デバイス関連冬季大会（平成28年2月予定）

誘致営業エリア拡大の一環での県外某大学を訪問し、第8回の大会長に同大学の教授が就任した情報を入手した。本学会は第4回大会が北九州市で開催されたことから、その実績などをアピールしたところ、他政令市との競合もあったが、平成26年7月に本市での開催が決定される予定である。今後、首都圏の学会事務局への訪問、市内某大学の関連教授に支援要請を行い、誘致を確実なものにしていきたい。

○PPTOX-V～出生前のプログラミングと毒性～（平成28年11月予定）

平成24年に開催されたパリ大会で、市内某大学教授が26年の北九州市開催に向けアピールする際に、情報資料を提供するなどのフォローを行った。その結果、一度は26年に本市での開催が決定していたものの、学会の内部事情により最終的にはボストンで開催されることとなった。

しかしながら、その後も引き続き、本市での開催を働きかけた結果、28年の開催が実現可能な状況となった。この機会を活かし、開催地としての魅力を十分にアピールし、誘致の実現を図りたい。

○Asia Academy of Management 2017（平成29年6月開催）

平成25年度は、積極的に海外へ出向き誘致営業を行った。東南アジア方面では、香港の主要な大学の教授と面談し、会場の利便性、開催支援制度の説明、北九州市の特性を生かした産業観光など積極的に売り込み、新規案件の誘致につながった。

（2）アフターコンベンションの強化

アフターコンベンションは、学会等誘致の大切なファクターである。札幌、東京、京都、沖縄等知名度の高い観光地の優位性は否めないが、北九州市の特質を活かした工場見学や産業遺産、工場夜景等の産業観光を各学会のエキスカージョンの場で積極的に提案し成果をあげることが出来た。また、平成25年度はバンケット開催地として門司港レトロ地区を積極的に提案し誘致を行った。

① 門司港レトロ地区バンケット実施例

- ・DEP 誘電泳動会議（国際）
- ・PEDS2013 パワーエレクトロニクス（国際）
- ・KES 2013（国際）
- ・電気学会放電誘電会議（全国）
- ・1st ICISIP（国際）
- ・電子情報通信学会（全国）

- ・ FIM 2013 (国際)
- ・ 第50回 IPS シンポジウム (国際)
- ・ RVSP 2013 (国際)
- ・ 日韓セラミックス (国際)
- ・ 日本レーザー学会 (全国)

② 産業観光

- ・ e-CASE 2013 (国際) 安川電機ロボット TOYOTA
- ・ 日本設備学会 (全国) JR九州工場
- ・ 電気学会電力技術会議 (全国) 西日本工業倶楽部と皿倉山夜景
- ・ DEWS 2013 (国際) いのちのたび博物館 エコタウン
- ・ FIM (国際) いのちのたび博物館

(3) 地域と連携した市制 50 周年事業 (スポーツマスターズ) への支援

9月7日(土)～9月17日(火)、のべ15,000人が参加した「北九州市制50周年記念日本スポーツマスターズ2013北九州大会」において、賛助会員であるJR九州に、大会告知、参加者の来訪歓迎のための協力要請を行った。その結果、同社から市内28駅に大会ポスター・市内主要4駅に大会看板を無償で掲出する等の協力を得て、市内外に広く大会の周知を行うことが出来た。また、同時に来訪者に対する歓待ムードを醸し出すなど、大会を成功裡に収める一助となった。

(4) 西日本総合展示場新館の新たな利用形態

平成25年8月に開催された第58回全国高等学校弓道大会(高校総体)で、西日本総合展示場新館が仮設弓道会場として利用された。主催者からは隣接ホテルからの抜群のアクセス等の利便性とスポーツ施設としての高い評価を得て、弓道の西日本大会の誘致の目途が立った。これによって、「西日本総合展示場新館のスポーツコンベンションへの活用」という新しい価値と可能性を見出すことができた。

(5) 国際ミーティング・エキスポ (IME2013) での誘致活動

我が国で唯一のコンベンション関係者が一堂に集うトレード・ショー「国際ミーティング・エキスポ (IME2013)」に出展し、大型会議・大会を主催する学会や協会等のキーパーソンに対し、北九州市の支援制度や施設、観光の紹介など、誘致活動を展開した。

出展にあたっては、昨年に引き続き北九州商工会議所産業観光推進室と共同し、ユニークベニューも含めた産業観光全般、夜景観光等の紹介を行った。

- * 会 期 : 平成25年12月10日(火)、11日(水)
- * 来場者数 : 350人
- * 面談件数 : 60件

(6) コンベンション開催助成金の活用による誘致活動

平成21年度から実施されているコンベンション開催助成金の拡充を受け、誘致活動において助成金を効果的に活用している。25年度は開催件数が延べ228件のうち、94件は助成金を効果的に活用することにより、誘致に至ったものである。

さらに、同助成金制度を紹介したコンベンションガイド「千客万来都市 北九州市」を新たに発刊。誘致営業のツールとして使用し、PR強化に努めた。

◆平成25年度 助成金交付実績（内訳）

規模別	件数(件)	助成金額(千円)	参加人数(人)
国際	27	34,200	16,902
全国	38	15,750	39,058
西日本・九州	29	10,910	27,310
計	94	60,860	83,270

(7) コンベンションボランティア制度を活用した開催支援

国際会議での語学対応、会場運営や日本文化体験など、ボランティア登録者が広く活躍できるよう主催者に対し、ボランティア制度のPRを行い、会議運営等の支援に役立てることができた。

◆コンベンションボランティア派遣実績

区分	登録者数(人)	派遣件数(件)	派遣人数(人)
25年度	65	12	82
24年度	88	10	89
23年度	75	10	128

(8) 俳句大会・吟行の誘致、支援

「俳句のまち北九州」を目指して、平成5年より俳句大会等の誘致・支援に取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを活用しながら大会開催情報を収集し、誘致を推進して来た。

平成25年度は、俳句結社「同人」の九州地区の年次大会を誘致した。関門地区での吟行、句会、懇親会など、延べ200人の参加者が本市を訪れた。

2 主催・共催事業

国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを実施した。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催） ※（ ）内は24年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイトinくら (旧コンベンションサロン「北九州泡盛会」)	H25年6月 H25年11月	延べ430人 (延べ540人)
夏休みこどもシアター	H25年7月28日	343人 (354人)
第39回将棋の日in北九州	H25年11月16～17日	812人
冬休みこどもシアター	H25年12月22日	449人 (293人)
第13回全国女性俳句大会 in 北九州	H26年3月1～2日	1,578人 (1,514人)
第22回北九州将棋フェスティバル	H25年3月15～16日	748人 (837人)

Ⅲ 公 3 ・ 収 1 ・ 収 2 : 貸館利用者の誘致・営業強化

【総 括】

「北九州シティマラソン」を始め、市制50周年関連イベントを誘致・開催するとともに、展示会の利用が低迷する中で、人気アイドルグループの握手会やカードゲームの九州大会など全国的に展開するイベント系の利用促進に努めた。

また、施設の運営面においても施設利用者への各種支援を行うほか、夏冬の閑散期対策としての子供向けイベント開催や、連休以外の祝日にフリーマーケットを開催するなど、施設の稼働率向上とにぎわいづくりのための集客増にも力をいれた。

このように、これまでに利用がなかった期間の施設利用の促進や利用事業者の集客を支援する取り組みは、顧客から一定の評価を得た。

あわせて、既存の顧客の定着化を図ることに加え、様々な要望を持った顧客のニーズに応えられるようにユーザーの視点に立った開催ノウハウの提供、および集客サポートなどの企画提案型の営業を実施し、他施設との差別化を図ることで展示場の利用増に取り組んだ。

今後は、他都市の展示場等との更なる競争の激化が予想されることから、顧客が当協会の施設を利用した成果をより高めるため、企画提案型営業をよりいっそう推進するとともに、メディア等とネットワークを広げ、機動力を向上させることにより、更なる営業強化を図りたい。

◆貸館営業の件数実績

(単位: 件)

年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
誘致件数	145	129	131

1 営業体制の強化

全国の企業を対象にプライベートショーやイベントのニーズを掘り起こすとともに、きめ細かいサポートを行うことで、新規利用者の開拓に取り組んだ。また、「九州の食EXPO」では、展示会の運営ノウハウを提供することにより、「西日本国際食品見本市」以来となる食ビジネスを集めた大型の「食の展示会」の誘致に成功した。

(1) 新規利用者の開拓

ゲームメーカーや音楽配給会社のゲーム系イベントの九州大会やアイドル系の九州地区イベントの会場ニーズを捉えて営業を強化したり、消費税増税前の駆け込み需要をにらんだ輸入自動車の展示会を3年ぶりに誘致するなど、利用者のニーズにあわせた営業を展開した。

(2) 利用者への支援

地域コミュニティFMや小倉駅前大型ビジョンを活用したイベントPRを利用者への広報支援として、展開した。大型イベントについては、品質の高い映像やチラシ素材を制作することで集客効果を高めた。また、隣接する「あるあるCity」やお笑い芸能プロダクションと連携し、イベントの品質向上にも協力した。

(3) 実績

- ア 大型展示会・イベント（本館・新館大展示場利用）の誘致件数は、前年度比で10%増となる33件に達し、集客増加につながった。
- イ 「北九州EXPOフリマ」や「MONO CAFE」を他のイベントと同時に開催することにより、同時開催のイベントに対して、売上及び来場者数の増加といった相乗効果をもたらし、あわせて駐車場の利用台数増にも貢献した。
- ウ バンダイやタカラトミー、円谷プロダクションといったコンテンツ企業や地元TV局といったメディアとの関係が深まり、次年度以降もこれらの企業と連携した企画が実施できる体制を築いた。
- エ 「ウルトラマンイベント」を共催することにより、「ウルトラマン・プレシャス・ステージ」といった全国ツアーのショーイベントを誘致することが出来た。

◆ 25年度 主な新規イベント・展示会等誘致実績

催事名	会期
マジック ザ ギャザリング グランプリ 北九州	H25 年 8 月 23 日～H25 年 8 月 25 日
HKT48「メロンジュース」劇場盤握手会	H25 年 9 月 28 日
SKE48「美しい稲妻」全国握手会	H25 年 9 月 29 日
2013ウェルディングフェスタin北九州(マツモト産業)	H25 年 10 月 26 日～H25 年 10 月 27 日
2013サンキュードラッグお客様感謝祭	H25 年 11 月 2 日～H25 年 11 月 3 日
モンスターハンターフェスタ2013	H25 年 11 月 10 日
図書館ブックフェア(トーハン)	H25 年 11 月 20 日～H25 年 11 月 21 日
九州の食EXPO	H26 年 2 月 10 日～H26 年 2 月 11 日
YMFGビジネスマッチングフェア2014	H26 年 2 月 20 日
第5回BMWエキサイティングフェア	H26 年 2 月 22 日～H26 年 2 月 23 日
2014九州こいけ市(小池酸素工業)	H26 年 3 月 14 日～H26 年 3 月 15 日
ウルトラマンプレシャスステージツアー	H26 年 3 月 23 日
バトスピフェスタ・ツアー バトスピ・チャンピオンシップ2014九州エリア大会	H26 年 3 月 29 日～H26 年 3 月 30 日

2 閑散期対策等のイベントコーディネート

閑散期の子供向けイベントとして、夏に「トミカ博 in 北九州」を開催し、6日間で6万人弱の来場者誘致に成功した。また、年末年始には「お正月だよ！ウルトラマン全員集合」と「ニューイヤーフェスタ2014」の2つのイベントを同時に開催し、5万人弱を集客した。これにより、閑散期の施設稼働率の向上にも寄与するとともに、親子でふれあうとした市制50周年事業の目的も達成した。

また、デジタル系のものづくりイベント「MONO CAFE」を、ヒューマンメディア財団と共同で開催した。「3Dプリンタ」や「プロジェクションマッピング」等を紹介するとともに、設備を所有する西日本工業大学でクリエイター講座を開き、北九州が多く人材を輩出しているクリエイティブ産業の振興に貢献した。

さらに、連休以外の祝日にフリーマーケットを開催して、北九州市内のNPOの展示会「北九州ソーシャルビジネスメッセ」を誘致するなど地域に貢献するとともに、施設の稼働率向上に努めた【再掲】。

特に、イベントの集客については、ターゲット層にあわせたチラシを作成することで、低コストで集客できるような仕組みづくりを行うことに成功した。こうした集客ノウハウの蓄積により、既存イベントの高度化、大型イベントの共催を実現し、前年度比で13万4千人の来場者を増やすことが出来た。

◆営業 閑散期対策・自主企画・運営支援事業（H25年度）

名 称	日 程	市との関係 ☆=50周年記念事業	入場者数
トミカ博in北九州2013	7/26～28・8/2～4	☆ 後援	58,105 名
Kitakyushu MONO CAFE	9/22～23	☆後援／協賛 ヒューマンメディア財団	5,000 名
こくらdeフリマ	9/23	☆共催	6,000 名
アイススケート フェスティバル	11/23	後援	700 名
ウルトラクリスマス モノレール	12/20	☆一	196 名
お正月だよ！ ウルトラマン全員集合 in 北九州	12/27～1/5	☆後援	24,068 名
ニューイヤーフェスタ in 北九州2014	1/2～1/5	☆後援	23,491 名
九州の食EXPO	2/10～2/11	共催	12,426 名
北九州EXPOフリマ	2/11	—	5,000 名
北九州 ソーシャルビジネスメッセ	2/11	協力	同上
合 計			134,986 名

Ⅳ 公1・公2・公3・収1：広報・宣伝、地域連携

【総括】

様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、施設利用者および来場者の掘り起こしに取り組んだ。

また、新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、地域のにぎわいづくりにも取り組んだ。

さらに、JR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

1 広報・宣伝

(1) インターネットを活用した広報の実施

ホームページを活用し、施設の紹介をはじめ、協会の主催事業及び展示場、会議場の催事案内などの最新情報を提供した。

(2) 広報誌「催事案内」の発行

これまでのものより、より多くの人が気軽に手に取りやすく、また、内容もシンプルにして分かりやすくした「催事案内」を制作・発行した。

内容については、直近3か月に開催される協会の主催事業や、当協会が誘致した展示会・イベント・学術会議・スポーツ大会などのコンベンション情報を広く紹介。

また、配布部数も1万部に増やし、2か月ごとに最新の内容に改訂して、多頻度（年6回）で発行し、集客にも活用できるものとした。

(3) コンベンションカレンダーの作成と提供

市内で開催される様々なコンベンション情報を収集・整理し、コンベンションカレンダーとして定期的に賛助会員等への情報提供を行った。

(4) コンベンションゾーンのPR

北九州の玄関口である北九州空港において、電照広告看板による施設のPRを実施した。また、JR小倉駅のマルチビジョンによるPRも行った。

さらに、「月間催し物案内」の広告出稿、JR小倉駅新幹線口や北九州モノレール各駅へのポスター掲示、加えて、公共性の高いイベントについては、市政だよりへ記事を掲載するなど、施設利用者への広報支援を積極的に実施した。

(5) コンベンション開催助成金制度のPR

北九州市のコンベンション開催助成金制度について、IME2013でのチラシ配布や、見本市展示会通信、MICE Japan等の広告媒体を活用し、全国にPRした。

2 地域連携

(1) 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントへの協賛、支援

小倉駅新幹線口地区で開催するイベントに協賛及び支援を行い、にぎわいづくりの一助とした。

ア クリスマスファンタジー in 北九州（花火・レーザーショー、ゆるキャラほか）

主催 北九州中小企業経営者協会

場所 あさの汐風公園

協賛 協賛金を負担

イ スポーツ GOMI 拾い in 北九州（チームで6種の分類、ごみの質・量を競う）

主催 NPO 法人北九州スポーツクラブ ACE

場所 あさの汐風公園

協賛 参加記念品（30チーム、185人参加）

（2）小倉駅新幹線口地区振興連絡会との連携

ア ホームページの定期更新による情報発信

ホームページのイベント情報の随時更新を行い、各会員のHPリンクバナーの貼付けを行い利便性の向上に努めた。

また、HPのマップ上に360度パノラマ画面を掲載するとともに、毎月各会員より提供いただいたプレゼント（1万円相当）をホームページ内で提供するなど、より魅力的なホームページ運営を行った。

イ 「小倉まちづくりミーティング 泡盛ナイト in こくら」の開催

各会員間の相互交流や小倉駅南側のまちづくり団体等との情報交換や連携を深める「小倉まちづくりミーティング 泡盛ナイト in こくら」を2回（6月と11月）開催した。参加者6月240名、11月190名

ウ 「Love あさの クリーンアップ活動」の実施

市内外から新幹線口地区を訪れる方々に、清潔で快適な新幹線口エリアで滞在を楽しんでいただくため、更に会員間や浅野住民の相互交流による連帯感の醸成を図るために当該地区のクリーンアップ活動を実施した。

今年度は、3回（4月、9月、12月）の計画を立てたが、雨天のため9月、12月が中止になり、4月のみの実施にとどまった。参加者130名

エ ギラヴァンツ北九州ホームゲーム観戦ツアーの実施

小倉駅新幹線口の臨海部にスタジアムの建設が決定したことを受け、地域をあげてギラヴァンツ北九州を応援する機運を醸成するため、当連絡会会員を対象に本城陸上競技場で開催されるホームゲームを観戦するバスツアーを2回実施した。参加者7月14名、8月44名

オ 小倉駅南北交流推進ミーティング（NSIミーティング）の開催

小倉駅南北の連携・交流を図るため、小倉中央商業連合会と当連絡会のメンバーが中心となり、少人数でアイデアを出し合う月1回程度のミーティングを開始し、出されたアイデアを基に、1月10日（金）～13日（月・祝）の4日間、小倉十日ゑびす祭に併せ「アイドル・ゆるキャラ大集合『小倉まちじゅうフェスタ』」を開催した。

（3）JR連携事業

ア JR九州との連携

JR小倉駅をはじめとした北九州近郊の主要駅に、協会主催事業をはじめ、主要イベント等のポスター・チラシを掲出し、広域からの集客向上を図るためのネットワーク構築に取り組んだ。

イ イメージアップの取り組み

各種時刻表へ協会および展示場の広告を掲載した。

協会の主催事業やイベントとＪＲ九州ポケット時刻表および小倉駅の時刻表をセットにしたもの（大・小版）を共同で作成し、小倉駅をはじめＪＲ九州管内の各駅で配布した。

V 公3・収1・収2：管理・運営

【総括】

西日本総合展示場本館・新館及び北九州国際会議場について施設管理者として公正かつ適正・効率的な管理運営を行うとともに、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。

また、展示場の利用者増および収入増を目的に、スポーツ利用料金や他都市施設との相互利用割引料金の設定等の検討を行い、より利用しやすい条件整備を進めている。

1 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用希望者への案内・説明には、利用に関する規程や料金等、重要事項の説明や事例紹介等を収蔵したタブレット型情報端末等を活用しながら、より円滑に行うことが出来た。

前年度から進めていた公衆無線LANのアクセスポイントの設置については、会議場、新館、AIM3階、本館すべて完了し、平成25年度夏から全施設での本格運用を開始したことで、利用者の利便性を高めることができた。

また、職員はもとより、設備、警備、清掃各部門の担当者も、それぞれ利用者には、迅速かつ丁寧な対応を心掛けることで、利用者からの安心と信頼を得ることができた。

(2) 危機管理スキルの向上

市制50周年事業のフィナーレを飾る「北九州マラソン」の開催に際しては、当施設がゴール地点となるため混乱が予想されたが、主催者、警察、放送局、施設管理者間等で綿密に事前の協議を重ね、適切な運営体制の下での対応により、混乱もなく無事に開催することができた。このような案件等への対応を通じ、職員の危機管理スキルをさらに高めることができた。

(3) エコアクション21認証と環境活動への取り組み

平成21年度から認証取得している「エコアクション21」を25年度も継続し、事務経費の削減、周辺清掃活動、利用者への節電等の呼びかけ等、環境保全意識の高揚と環境に配慮した活動に努めることで、お客様の信頼向上や周辺地域への貢献、関係団体・行政機関等へのアピールなどに結びつけることができた。

2 利用料金の見直しの検討

指定管理者として、他都市の施設の料金体系や減免措置、割引制度も参考にしながら、より効果的、効率的なサービスの提供を行うため、料金体系の見直しについて、「新たな利用料金枠の設定」、「利用料金の低廉化」、「減免制度の改廃」、「自主的な営業施策的支援」について、引き続き北九州市との協議を進めてきた。

特に、高体連「弓道会場」として好評を博したことからスポーツ利用料金や他都市施設との相互利用割引料金の設定等の具体的検討を行い、稼働率の向上を目指してきた。

3 管理業務の効率化

(1) 管理経費の削減

改修工事等に伴う設備の更新にあたっては、保守契約をメーカーの保証期間を考慮した点検回数に改めるなど、前年度に引き続き委託費の節減に努めた。

4 施設の改修等

(1) 西日本総合展示場本館の改修等

ア 西日本総合展示場本館の改修

本館については、利用者や来場者に対する管理責任上、雨漏れ防止と消防設備の改修等を行った。雨漏り対策としては、雨水管が鉄管施工のため、経年劣化に伴う腐食による漏水が発生するため、逐次状態の悪い箇所から改修を行った。

また、冬季のアイススケート開催中は、消防設備、電気設備等の点検補修を強化し、湿潤劣化防止に努めるとともに、キャットウォークに仮設照明器具を設置し、夜間の来場促進を支援した。

イ 西日本総合展示場本館の耐震診断

懸案の耐震改修については、事前調査の後、特殊構造物であること等から慎重に業者を選定し、平成25年度には耐震診断を実施した。その診断報告を審査機関に提出し、今夏の最終診断結果を待つ段階に至っている。

ウ その他の改修等

利用者からの要望が多かった公衆無線 LAN のアクセスポイントを設置し、供用を開始した【再掲】。また、傷みの激しかった主催者室の椅子や備品の更新などを行った。

(2) 西日本総合展示場新館の改修等

ア 北九州市の改修

かねてより、老朽化により突発的に制御不能となっていた鍵管理システムについては新規の設備に更新し、著しく故障すると業務の遂行や利便性の低下につながる PBX（構内電話交換機）も一新した。

引き続き、豪雨時に不安を抱える施設周り、特にイベント広場の地盤強化等を含む外溝の改修や、老朽化の著しい天井の吊りバトンの改修および地下駐車場の発券精算システム、入場者カウンターシステムなどの更新を引き続き要望していく。

ウ その他の改修等

降雨時に発生していた冷温熱供給センターとの地下境界部分の湧水による水漏れ箇所の防水改善を行った。

また、利用者からの要望が多かった公衆無線 LAN のアクセスポイントを新館および、A I M 3 階に設置し供用を開始した【再掲】。

(3) 北九州国際会議場の改修等

ア 北九州市の改修等

経年劣化に伴い、不具合が頻発していた空調管理システムの新機種への更新を行ったことにより、空調の不具合に関する不安は一応解消された。

イ 北九州市に要望する改修等

開館から23年経過し、建物そのものの外観・内観の維持に加え、基幹設備や備品類の経年劣化は各所に進行している。特に、各設備機器メーカー点検後に指摘される不具合、不安箇所の中でも、電気設備関連の老朽化は大きなトラブルを引き起こす危険性を抱えている。そのため、受変電設備、照明・映像電源基盤等、会議場としての施設機能の維持運営には必須の大型設備の改修が望まれる状況が続いている。

北九州市に対し、分割改修の提案も含めて、改修を要望していきたい。

ウ その他改修

映像装置、電子機器類の更新等、可能な限りの改善を行うとともに、劣化や汚損の激しい机、椅子等備品類の補修・更新や磨耗したカーペットの張替え等にも継続的に取り組むなど、できる限り施設内外の美観を維持し、他都市の施設との競合の多い学会・国際会議利用者の満足度をより高めることに努めた。

また、特に学会・国際会議利用者から要望の多かった公衆無線 LAN のアクセスポイントを設置し供用を開始した【再掲】。

5 施設の稼働率等

(1) 西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	67	240	65.8	32
24年度	82	251	68.8	27
23年度	78	238	65.0	18

(2) 西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	170	284	78.2	50
24年度	162	282	77.3	45
23年度	141	259	71.5	38

(3) 北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	513	317	88.3	7
24年度	588	320	88.9	7
23年度	641	319	88.6	7

6 指定管理者としての評価

(1) 市の外部委員の評価

現時点では平成24年度実績に対するものが最新のもので、内容は以下のとおり。

ア 北九州国際展示場について

「長引く厳しい経済環境の中、施設の利用用途を拡大し、さらに顧客の視点に立った開催ノウハウの提供や集客サポートなど企画提案型の営業活動を行った結果、利用件数の増となり、一定の成果を上げている。

また、経費の低減に努めながらも、サービス向上のため備品の更新や、公衆無線LAN設備の整備を行うなど、効率的な運営が行われている。」との評価を得た。

イ 北九州国際会議場について

「評価対象期間中は、経済状況の悪化、又は震災等の影響により、目標に達しないものもあったが、営業力の強化などで、一定の成果を上げている。

コンベンション誘致については、新たな制度を活用した取組みにより国際学会の開催が決定したことや、営業活動により新規顧客の開拓を行い、平成24年度には200件を超える誘致に成功したことは評価できる。また、コンベンションの誘致・開催の振興といった市への政策支援も図られている。

さらに、関係機関との連携により、大規模な大会・学会等にも、混乱なく対応できたことも評価できる。

利用者の満足度については、高い水準を維持しつつ、経費の削減にも努めている。指定管理者全体の経費を調整しながら施設の改修を実施するなど、効率的な施設運営がなされている。

会議場内のレストランが撤退する厳しい状況にあったが、運営方法の変更などで、新たな事業者によりレストランが再開されたことは評価できる。

危機管理体制については、危機管理マニュアルに基づき、抗議活動への対応などこれまでになかった不測の事態への対策も混乱なく適切に行われた。」との評価であった。

ウ その他の評価等について

「利用者の満足度が高いことや、大規模な学会等にも、混乱なく対応できたことは評価できる。

今後とも施設の設置目的達成に向けた、目標を上回る管理運営の継続を期待するとともに、次年度以降の新たな広がりが見込まれる裾野の広いイベントを、より多く誘致、開催することで施設の設置目的をより効果的、効率的に達成するよう取り組んでいただきたい。」との評価および意見があった。

(2) 次期指定管理計画の目標実現に向けて

これらの評価・実績を土台に、平成26年度からの5年間、改めて指定管理者としての指定を受けることが出来た【再掲】。

平成26年度は新たな指定管理期間の初年度にあたる。このため、指定管理計画に掲げる目標（H26年度：来場者数（展示場・会議場）75万人、コンベンション誘致件数185件など）を着実に達成するため、よりいっそう計画的・組織的な取り組みを進める。